

達してゐない畸形を示してゐるとの見解を持せられたものである。

かくの如く保守主義と同化力との兩者を漢族の有した特徴として説かれたのであるが、これは西人も既にこれを説いてゐることでも必ずしも博士に始まるのではない。但しかく兩者を區別したやうに見えるけれども、然も漢族は周圍の民族から壓迫せられたが故に自己保存の爲保守主義となり、その保守主義に依つて永く舊來の文化を維持し、その文化の中に類型文化の周圍の民族を同化するを得たのであるといふのであつて見れば、要するに兩者は相關聯繫の一事象であつて、互に區別せらるべきことではない。この漢族が保守性に富んで、古き起源の文化を克く今日に傳へ、東亞の民族中支那に入つてこれを支配したものの、もしくは支那に入らないまでも之に接觸した東亞民族がその文化に同化せられたことは、今一々舉例して説くまでもなく明らかな事實である。従つて今日に於ても何人もかゝる事實に基いたかゝる見解に對して異議を挟むものはなく、通説として認められ、民國の史家、評論家の如きも一樣にこれを唱ふること、例へば王桐齡氏の昭和十一年六月東洋史談話會に於て、「支那に於ける外來民族の漢化に就いて」と題した講演の末尾に、かくの如く漢民族の同化力が強いので、自然に入り込んだ外民族は漢化されて居り、假令入り込んで居らなくても、一度密接な關係で結びつけば、必ずある程度まで漢化されてしまつたのであります」と説いて居るが如きである。然もかゝる通説は果して動かす可らざる定説として認めねばならぬのであらうか。東方諸民族の文化が漢文化化したる事實は固より明白で疑ふ餘地はないけれども、然もかゝる事實は漢族の保守と同化の力とが強大なるが故であるといふ理由以外に理由を求め得ないのであらうか。今これに關して管見を加へることが本講の趣旨とするところである。